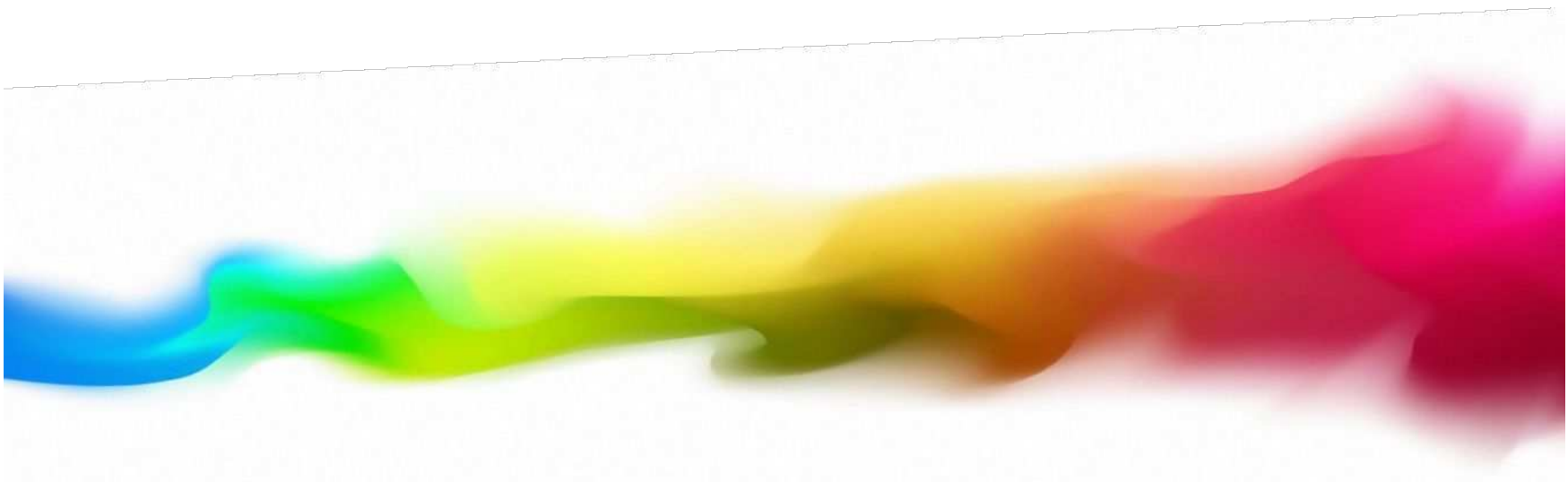


高校生の生活実態に関する アンケート調査（速報）



弘前大学「子どもの貧困」プロジェクト代表

吉田 美穂（弘前大学教職大学院）

子どもの貧困とヤングケアラー

この度、青森県内のある定時制・通信制の高校において、ヤングケアラーに焦点を当てた「高校生の生活実態に関するアンケート調査」を実施しました。

結果から、ヤングケアラーと子どもの貧困には、重なりが大きいことが見えてきています。

今後、子どもの貧困対策の推進にあたっては、ヤングケアラーという視点が必要になってくると思いますので、速報のデータを、ご報告させていただきます。

弘前大学「子どもの貧困プロジェクト」

- 正式な名称は、弘前大学「子どもの貧困」をめぐる地域・学校・自治体の連携・協働推進プロジェクト（2017年7月発足）
- 青森県の「子どもの貧困」をテーマとするセミナー等の企画運営及び地域に根ざした調査を通じて、大学・自治体・学校・地域の間に関の見える関係を築き、支援に向けて連携・協働を推進することを目指しています。
- 企画会議委員は、青森県内の小学校、中学校、高等学校の校長先生、青森県社会福祉協議会職員、青森県社会福祉士会理事、高校のスクールライフサポーター、男女共同参画をテーマとするNPO法人代表と、弘前大学教員2名です。

ヤングケアラーとは

- 家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている、18歳未満の子どものことです。ケアが必要な人は、主に、障がいや病気のある親や高齢の祖父母ですが、きょうだいや他の親族の場合もあります。

(ヤングケアラーのイメージ (例))



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟「こんな人がヤングケアラーです」

調査概要

- 目的：ヤングケアラーの実態を把握し、支援について考える基礎資料とする。
- 実施期間：令和3年10月26日～11月12日
- 対象：定時制・通信制を置く青森県立高校 1校の在籍生徒273名
- 方法：学校を通して説明し実施。定時制についてはホームルーム活動の時間等に、通信制については各自の都合の良い時間に、Web上で回答。
- 回答者数：165名 うち有効回答163名（定時制137名，通信制16名）
- 回収率 59.7%（定時制76.1%，通信制17.2%）

ここから、
「お世話をしている」 49名と
「お世話をしていない」 114名を
比較してデータをみていきます。

基本情報②

	お世話をしている <i>n</i> =49	お世話をしていない <i>n</i> =114
母子世帯	32.7%	29.8%
三世代世帯	42.9%	38.6%
兄・姉がいる	49.0%	35.1%
弟・妹がいる	51.0%	51.8%

お世話をしている／いないことと学校生活

	お世話をしている $n=49$	お世話をしていない $n=114$
健康状態が「ふつう」未満	18.4%	10.5%
欠席をよくする	24.5%	10.5%
部活動に参加している	28.6%	21.9%
授業中に居眠りすることが多い	36.8%	27.2%
宿題や課題ができていないことが多い	22.4%	11.4%
持ち物の忘れ物が多い	28.6%	20.2%
提出しなければならない書類などの提出が遅れることが多い	30.6%	17.5%
修学旅行などの宿泊行事を欠席する	8.2%	1.8%
学校では1人で過ごすことが多い	20.4%	14.0%

お世話をしている／いないことと普段の生活

		お世話をしている <i>n</i> =49	お世話をしていない <i>n</i> =114	青森県子どもの生活実態調査 中2・困窮家庭
平日の朝ご飯を食べる回数 0～2回		42.8%	26.3%	9.7%
果物を週に4日以上食べる		10.2%	24.6%	70.8%
自分だけが使えるものがある	インターネットとつながるパソコン	46.9%	34.2%	27.0%
	自分専用の勉強机	61.2%	68.4%	72.4%
	自転車	65.3%	78.9%	75.7%
	友達が着ているのと同じような服	40.8%	53.5%	36.2%
	2足以上のサイズの合った靴	69.4%	76.3%	68.6%
	携帯電話、スマートフォン	91.8%	97.4%	45.4%

お世話をしている／いないことと家族との関係

		お世話をしている	お世話をしていない	青森県子どもの生活実態調査 中2・困窮家庭 (保護者)
家族と一緒にしていること	旅行やキャンプに行く	22.4%	28.9%	キャンプ・バーベキュー 28.9%
	遊園地やテーマパークに行く	18.4%	16.7%	27.4%
	博物館・科学館・美術館などに行く	16.3%	14.9%	20.3%
	スポーツ観戦やコンサート、観劇に行く	4.1%	11.4%	18.3%
	お誕生日のお祝いをする	75.5%	74.6%	85.8%
	自分の将来について話す	69.4%	62.3%	
	いずれもしていない	12.2%	13.2%	

お世話をしている／いないことと 困ったり悩んだりしていること（複数回答）①

	お世話をしている <i>n</i> =49	お世話をしていない <i>n</i> =114
友達関係のこと	26.5%	22.8%
恋愛や交際相手のこと	16.3%	14.0%
学業成績のこと	38.8%	36.8%
進路のこと	71.4%	59.6%
部活動の友人との関係のこと	4.1%	4.4%
学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと	34.7%	12.3%
塾（通信含む）や習い事ができない	4.1%	0.9%

お世話をしている／いない 困ったり悩んだりしていること（複数回答）②

	お世話をしている	お世話をしていない
家庭の経済状況のこと	40.8%	14.0%
自分と家族の関係のこと	24.5%	9.6%
家庭内の人間関係のこと	26.5%	7.9%
自分の体調のこと	42.9%	22.8%
病気や障がいのある家族のこと	20.4%	2.6%
自分のために使える時間が少ない	10.2%	4.4%
特にない	8.2%	24.6%

お世話をしている／いないことと 相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人

	お世話をしている	お世話をしていない
相談相手や話を聞いてくれる人がいる	30.6%	42.1%
相談相手や話を聞いてくれる人がいない	10.2%	2.6%
相談や話はしたくない	26.5%	13.2%
無回答	28.6%	26.3%

お世話をしている／いないことと ヤングケアラーへの認識

		お世話をしている	お世話をしていない
ラー ー 自 分 に は あ て は ま る ケ ア か ア	あてはまる	14.3%	1.8%
	あてはまらない	28.6%	87.7%
	わからない	57.1%	10.5%
が う ヤ ン グ ケ ア ラ ー と い う 言 葉 を 聞 いた こ と 有 る か	聞いたことがあり、内容も知っていた	10.2%	15.8%
	聞いたことはあるが、よく知らなかった	18.4%	17.5%
	聞いたことはなかった	71.4%	66.7%

ここから、
「お世話をしている」49人について、「お世話」の具体的な内容を示すデータをみていく。

お世話としてやっていること(複数回答)	割合
家の中の家事（食事の用意、後片付け、掃除、掃除など）をやっている ★1	67.3%
家庭の管理（買い物、家の修理仕事、重いものを運ぶなど）をしている ★2	53.1%
金銭の管理（請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど）をしている	10.2%
家計を助けるために、アルバイトしたり、家の商売など手伝っている	38.8%
家族のための言語やコミュニケーションのサポート（日本語や手話の通訳をする、書類や手紙を説明して対応するなど）をしている	6.1%
家族が薬を飲んだか確かめたり、いつもより体調が悪くなったりしていないか、確認する	22.4%
家族が病院に通うのに、付き添って手助けしている	14.3%
家族の身の回りの世話（衣服の脱ぎ着の手助け、入浴・トイレの手助け、移動の手助けなど）をしている	10.2%
感情面のケア（その人のそばにいる、元気づける、話しかける、見守る、その人を散歩など外に連れ出したりする）をしている	26.5%
医療的なケア（栄養をチューブで入れたり、痰を吸引したりなど）をしている	0.0%
まとまった時間、1人できょうだいの世話をする	12.2%
きょうだいの保育所などの送り迎えをする	2.0%

項目数	7	6	5	4	3	2	1
割合	4.1%	6.1%	2.0%	14.3%	10.2%	26.5%	32.7%

★1, ★2のみで平日・休日とも1時間未満は、11人。今後、ヤングケラーの定義を検討する必要がある。

世話をしている相手(複数回答)	割合
母親	63.3%
父親	26.5%
祖母	14.3%
祖父	8.2%
きょうだい	40.8%
その他	0.0%

カテゴリー数	割合	カテゴリーの組合せ
3	10.2%	母親・父親・きょうだい 2 母親・父親・祖母 1 母親・祖母・きょうだい 1 祖母・祖父・兄弟 1
2	32.7%	母親・父親 6 母親・きょうだい 6 母親・祖母 2 父親・祖母 1 祖父・きょうだい 1
1	57.1%	母親 13 父親 3 祖母 1 祖父 2 きょうだい 9

一緒にお世話を やっている人 (複数回答)	割合
母親	55.1%
父親	24.5%
祖母	6.1%
祖父	2.0%
きょうだい	36.7%
親戚の人	4.1%
ヘルパーなどの 福祉関係の人	6.1%
近所の人	0.0%
いない (自分だけ)	24.5%
無回答	2.0%

カテ ゴリ ー 数	割合	カテゴリーの組合せ
5	2.0%	母親・父親・祖母・祖父・きょうだい 1
4	0.0%	
3	14.3%	母親・父親・きょうだい 2 母親・父親・親戚 1 母親・祖母・きょうだい 1 母親・祖母・福祉関係の人 1 母親・きょうだい・福祉関係の人 1 父親・きょうだい・親戚 1
2	24.5%	母親・父親 6 母親・きょうだい 4 母親・福祉 1 父親・きょうだい 1
1	32.7%	母親 9 きょうだい 7
0	24.5%	
無回答	2.0%	

n=49

お世話を始めた時期	割合
小学校入学前	4.1%
小学校1～3年	12.2%
小学校4～6年	20.4%
中学生の時	32.7%
高校生になってから	30.6%

お世話の頻度	割合
ほぼ毎日	28.6%
週に4～5日	28.6%
週に2～3日	28.6%
週に1日	6.1%
1か月に数日	6.1%
その他（時々）	2.0%

一日のお世話の時間	平日	休日
1時間未満	38.8%	38.8%
1時間から2時間未満	30.6%	24.5%
2時間から4時間未満	8.2%	6.1%
4時間から6時間未満	16.3%	12.2%
6時間から8時間未満	2.0%	12.2%
8時間以上	4.1%	6.1%

n=49

お世話をする理由(複数回答)	割合
親の病気や障がい、精神疾患、入院のため	8.2%
親が仕事で忙しいため	55.1%
祖父母の病気や加齢、入院のため	10.2%
親が家事をしない状況のため	10.2%
ひとり親家庭であるため	22.4%
年下のきょうだいがいるため	28.6%
きょうだいに障害があるため	6.1%
親にとって日本語が第一言語でないため	2.0%
他にお世話する人がいなかったため	6.1%
福祉サービスを利用していないため	2.0%
お世話をしたいと自分で思ったため	28.6%
その他（将来自分でできた方がよいから、暇つぶし、コロナで家族の収入が減ったから 各1）	6.1%

カテゴリー数	割合
6	2.0%
5	4.1%
4	4.1%
3	4.1%
2	40.8%
1	42.9%
無回答	2.0%

お世話で生じる影響(複数回答)	割合
学校を休みがちになっている	2.0%
学校の遅刻・早退が多くなっている	8.2%
授業に集中できない	6.1%
部活動ができない	2.0%
勉強の時間が十分取れない	8.2%
成績が落ちた	4.1%
友達と遊ぶことができない	10.2%
周囲の人と会話や話題が合わない	4.1%
睡眠不足になっている	8.2%
しっかり食べていない	8.2%
体がだるい	20.4%
自分の時間が取れない	10.2%
進路についてしっかり考える余裕がない	12.2%
受験の準備ができない	2.0%
アルバイトができない	6.1%
特に影響はない	63.3%

n=49

カテゴリー数	割合
8	2.0%
7	4.1%
6	0.0%
5	0.0%
	8.2%
3	2.0%
2	8.2%
1	12.2%
0	63.3%

お世話をしていると感じること①プラスの感情（複数回答）	割合
お世話をすることで、良いことをしていると感じる	42.9%
お世話のために、家族の絆が強まったと感じる	16.3%
お世話をすることで、自分に自信を持つようになった	12.2%
お世話をすることで、役に立つことを学んでいると感じる	14.3%
お世話をしている自分が好きだ	6.1%
お世話をすることで親に感謝されていると思う	22.4%
お世話をすることで、以前より、いろいろなことに上手に対応できるようになったと思う	34.7%
お世話をすることで、自分が役に立っていると感じる	16.3%

お世話をしていると感じること②マイナスの感情（複数回答）	割合
お世話のために、嫌なことをしなくてはならないと感じる	14.3%
お世話のためにストレスを感じる	22.4%
お世話をしていることから逃げ出したいと思う	14.3%
お世話のために、周りから取り残されていると感じる	2.0%
お世話をしているが、自分にはとても大変すぎると思っている	2.0%
お世話のことがいつも頭から離れない	2.0%
お世話をしている、とても悲しい気持ちになる	2.0%
お世話のために、自分のことを考える時間がない	4.1%
お世話をしている自分を誰も助けてくれないと感じる	0.0%
お世話をしている、自分の人生が犠牲になっていると感じる	20.4%

プラスの感情とマイナスの感情による分類	「お世話をしている」 49人
プラスの感情のみを抱いている者	59.2%
マイナスの感情のみを抱いている者	18.4%
両方の感情を抱いている者 うちプラスの方が多い者 うちマイナスの方が多い者 うちプラスとマイナスが同数の者	20.4% (8.2%) (6.1%) (6.1%)
無回答	2.0%

● 「お世話」について相談したことがある 8 人（16.3%）

相談した人（複数回答）	人数	相談した人（複数回答）	人数
母親	3	スクールソーシャルワーカー	0
父親	1	スクールカウンセラー	1
きょうだい	2	福祉サービスの人（ヘルパーや介護職員など）	0
祖父	1	医師	0
祖母	1	看護師	0
親戚の人	2	アルバイト先の人	1
友人	3	SNSで知り合った人	2
担任の先生	2	電話相談のスタッフ	0
保健室の先生	2	その他	0
近所の人	0		

● 「お世話」について相談したことのない41人（83.6%）

相談しない理由（複数回答）	割合
誰かに相談するほどの悩みではない	78.0%
家以外の人に相談するような悩みではない	9.8%
誰に相談するのがよいかわからない	9.8%
相談できる人が身近にいない	7.3%
家族のこのため話しにくい	7.3%
家族のことを知られたくない	7.3%
家族に対して偏見をもたれたくない	9.8%
相談しても状況が変わるとは思わない	14.6%
相談しようと思っているがチャンスがない	2.4%
その他	0.0%

コロナによるお世話の変化	割合
負担が増えた	10.2%
負担が減った	0.0%
変わらない	87.8%

※一部の具体的内容

祖父母の世話 1

ルンバ・調理ロボといった手伝い

好きのロボ商品を導入したい 1

学校や周りの大人に助けてほしいことや必要な支援（複数回答）	割合
自分の今の状況について話を聞いてほしい	12.2%
家族のお世話について、相談に乗ってほしい	6.1%
家族の病気や障がい、ケアなどについてわかりやすく説明してほしい	6.1%
自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスが欲しい	0.0%
自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスが欲しい（※）	4.1%
自由に使える時間が欲しい	14.3%
進路や就職など将来の相談に乗ってほしい	8.2%
学校の勉強や受験勉強などの学習サポート	4.1%
家庭への経済的支援	16.3%
特にない	69.4%
その他	0.0%

弘前大学「子どもの貧困」プロジェクト・セミナー（オンライン開催）

ヤングケアラー

への**支援**を考える

日時

2022年

2/20 Sun

13:30 ~ 16:00

ヤングケアラーとは…

大人が担うような家事や家族の世話を日常的に行い、やりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていない状況にある子どものことをいいます。

福祉や教育の関係者をはじめ、関心をお持ちの皆さんのご参加をお待ちしています。

参加費：無料

オンライン (Zoom)

お申込み・お問合せは「裏面」を！

- ① 調査報告 吉田美穂 (弘前大学) 越村康英 (弘前大学)
青森県のヤングケアラーについて考えるために
～高校生の生活実態に関するアンケート調査報告～
- ② 講演 ゲスト講師：黒光さおり (スクールソーシャルワーカー)
沈黙のヤングケアラー
～スクールソーシャルワーカーとして、元ヤングケアラーとして～
- ③ パネルディスカッション
黒光さおり × 葛西裕美 (青森県社会福祉協議会) × 工藤利彦 (弘前市立常盤野小中学校)
ヤングケアラーへの支援を考える

【主催】弘前大学「子どもの貧困」プロジェクト

【共催】青森県社会福祉協議会

【後援】青森県 青森県教育委員会

青森市 青森市教育委員会 弘前市 弘前市教育委員会 ※現在、申請中

後日、詳しい分析結果を報告予定

【申込み方法】

右のQRコードを読み取り、申込みフォームに必要事項を入力し、送信してください。



次のURLからもアクセスできます。

<https://forms.office.com/r/r2J882GnP8>

【問合せ先】

弘前大学大学院教育学研究科
吉田美穂研究室

電話 0172-39-3398 (研究室直通)

e-mail m-yoshida@hirosaki-u.ac.jp